

読むこと 話すこと 書くこと



国際交流協会理事長

太田 進造 氏

教育随想



月報

岡崎の教育

平成18年7月1日

7月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
国際交流協会理事長 太田 進造氏	
この人に聞く	2
岡崎和裁組合理長 加藤 弘子氏	
羅針盤	2
算数・数学科指導員 田村 康則	
ふれあい	3
藤川小 高島 絵里 西尾市立米津小 長谷川勝一	
特集	4
山を守る	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
遊び主体の保育の始まり (昭和44年)	
この本を	8

人生は教育によって自己の世界を広くするものであります。また、教養は必ずしも教育と高下の関係でも比例するものでもありません。まして、学歴にこだわり、受験勉強に明け暮れさせるものでもありません。

人として教養を高めるためには、読書によって過去の偉大な人物、または外国の全く異なった環境にある人の考えを吸収することです。また、話すことによって相手の考えを理解すること。そして、自分の考えを表現する習慣を身につけることが重要だと思えます。

書くことは、ゆつくり時間をかけ、正確に自分の考えを表現する手段であり、後に、記録として残るものです。読むこと、話すこと、書くことは、それぞれの違った面を持つコミュニケーションの方法です。



私が学校教育に期待することは、人としての幅と人間性を高め、教養を深め、そして物事を多面的にとらえ、発想力が豊かで柔軟な脳を持ち、次世代の日本を背負って立つ健康的な若者を育てることです。

私共の岡崎市国際交流協会(OIA)では、姉妹都市交流事業として、毎年高校生、社会人を対象とした海外親善研修交流を行っています。外国に行き、見ることに、聞くこと、話すことにより、新たな理解や友情が生まれ、国際理解の新芽が育つてお

現在、岡崎市には一万名に近い外国人の方が生活しておられます。市民と外国人が相互に理解し合い、共に暮らせるコミュニティを形成する上からも、基本的な『読むこと』『話すこと』『書くこと』は相互理解の上で重要なことです。

外国の人たちにも住みやすい岡崎市が実現できるよう、多文化共生社会を皆で協力してつくりたいと思います。

(おおた しんぞう)



和の心を伝える

岡崎和裁組合会長

加藤 弘子 氏

「小さなボランティアですが、子供たちに一つの物を大切にすることを伝えていきたいと思っています。職人ですから当たり前のことですが、私が運針をすると、子供たちが目を輝かせ、拍手をしてくれるんです。それに心を打たれ、こんなことでもいいならと続けています。」

和裁士として活躍する傍ら、最近学校現場で取り入れられている和装教育に携わっている加藤さん。市内の小・中学校を回って手縫いの良さ

を伝えている。

「子供たちはすごいですね。玉結びでも玉どめでも、あつという間に覚えてしまいます。針に糸を通すのでも、子供たちは針山に針を刺した状態で糸を通そうとします。そんな様子を見て、私たちにも新鮮な発見がありますね。」

ご両親が和裁士だった加藤さんは、幼いころから職人の技に触れて育った。高校卒業後、和裁士を目指して上京し、新しい技術を学んだそう。しかし、逆に昔ながらの仕立ての良さを再認識したため、親元に戻って修行をし直し、現在に至る。

「着物にはしつけというものをかけますが、それを見れば、仕立ての善し悪し^よが分かり、職人の仕事の深さが見て取れます。そのくらい大切なものです。人も同じで、しつかり



と躰^しけられていれば、芯^このある立派な人間に育ちます。和装用語には、こうした日本古来から受け継がれている大切な心につながる言葉が多いですね。」

他にも、縫い進む先を留めておく待ち針は、家族の帰りを家で待つ母の心につながる言葉だそう。現在、加藤さんのもとで和裁士を目指している生徒は、三名。技術指導だけでなく、こうした和の心も教えている。

「どんな人もプロに育て上げる腕があります。修行は五年間ですが、手先の器用さに初めは差があっても、最終ゴールは必ず同じにします。それが指導者なんです。そのためには、とにかく素直で、無垢^{むく}な心で人の話が聞ける子であることが必要です。そうであれば、どんなことも吸収でき、必ず目標に到達します。」

和装の世界には、現代化に伴って我々が忘れかけている心や、子供たちに伝えたい大切なことがたくさん残っている。時代は変わっても、人として大切なことは変わらない。教育の根本につながるお話だった。

氏名 かとう ひろこ
生年月日 昭和十八年五月三日
住 所 城北町十三—二



生徒の実態に寄り添った 授業の組立を

算数・数学科指導員 田村 康則

A中学校での数学の授業。始業のチャイム寸前に、前に立つ授業者の携帯電話が教室中に鳴り響いた。あわてて出るB先生。生徒たちは突然の出来事に、心配そうに先生を見つめている。この生徒たちの様子に、まず先生と生徒の温かい人間関係をかいま見ることができた。

電話が終わると先生は何事もなかったように、「携帯って便利だね。持っている人」と、生徒に問いかける。中学二年生にしては少ない五人が手を挙げた。しかし、生徒たちは携帯に興味があるらしく、料金のこと等、話のやり取りに夢中になっていた。実はこの話が本時の学習課題「携帯電話の一番お得なプランについて考えよう」へとつながっているのだった。見事な導入である。

学び合い

藤川小 高島 絵里



「先生、ありがとう。」
 帰りの会で、思いやりのある行い
 をした友達を発表したときのこと。
 「落とし物を拾ってくれた」などと
 いった発表が続く中で、A男はこう
 言った。的外れのこの発言に、一瞬
 笑いの声が起こった。すると、A男は、
 「僕は算数が苦手なんだけど、先生
 はあきらめずに一から教えてくれた。
 本当にうれしかったよ」と続けた。
 A男は割り算ができなかった。そ
 れは、掛け算の九九をしっかり覚え
 ていないことが原因だった。そこで、
 A男と相談し、もう一度九九を復習
 することにした。休み時間、給食を
 食べた後、授業後、さらに、夏休み
 や休日の当番活動の後でも、繰り返し
 し取り組んできた。言えたときには

「すごい、できたね」とほめ、忘れ
 てしまったときは「もう一度がんば
 ろう」と励ました。苦手を克服しよ
 うと一生懸命なA男。私は、いつし
 か、そのひたむきな姿に感心してい
 た。そして、努力が実るように粘り
 強く指導し続けていった。
 最初笑った子供たちも、A男の努
 力していた姿を思い出し、温かい拍
 手を贈った。



A男の海

西尾市立米津小 長谷川勝一

五月、絵をかく会が実施された。
 六年生のテーマは「日本の四季」で
 ある。子供たちは自分の好きな季節
 を選び、その季節からイメージする
 ものを書き出した。

A男は夏を選んだ。部活に燃える

ことができ、家族とくつろぐ日々が
 送られる夏休みがあるからである。
 口数は少ないが、選んだ理由からは、
 夏を待ち遠しく思っている様子が伝
 わってきた。



下絵作りに入った。A男はカブト
 ムシやアゲハチョウなど、夏を連想
 するものを次々に描いた。そして背
 景には海。A男は黙々と制作に取り
 組んでいる。彩色も順調にみえたが、
 背景の海になると筆が止まった。

「先生、海の色がうまく作れません。」

A男のパレットは青を主体とした
 色で埋め尽くされていた。しかし、
 その色はすべて違うという。そこで、
 改めて混色や重色の指導を、青を主
 体に行なった。しかし、A男のこ
 だわりは続く。そして、「どこの海
 が描きたいの」との問いに、「一色
 の海」と答えた。A男が描きたかつ
 たのは、常夏のビーチではなく、釣
 り好きな父と通った三河湾の海であ
 った。こんな小さなこだわりを大切
 にできる教師でありたい。

生徒たちは自然に授業に入り込んで
 いった。

基本料金と通話料金がそれぞれ違
 う四つのプランが提示され、自力解
 決の時間に入る。生徒たちは、それ
 ぞれのプランについて、数表や式、
 グラフを作って追究し始める。提示
 された料金はグラフを描くには難し
 い数値なのだが、抵抗なく描いてい
 る生徒が多い。それまでの学習が確
 実に定着している証拠である。つま
 ずいている生徒には、表やグラフが
 描きやすいようなプリントが用意さ
 れていた。生徒のことを考えた細か
 い配慮が他にも随所で見られた。

少したって、次はグループでの練
 り合いが始まった。コミュニケーション
 タイムと呼ばれる時間である。「百
 分以上話すならDプランがお得だよ」
 等、自分の考えを基に意見を交流さ
 せる生徒たち。話し合いは温かい雰
 囲気で進められた。グループの代表
 が発表ボードにまとめ、それを提示
 して集団解決に入る。その結果、教
 師がねらった、通話時間により得な
 プランが変わってくるという結論を、
 生徒たち自らが導くことができた。
 生徒の実態を踏まえ、生徒に寄り
 添った授業を組み立てたことが成功
 へと結びついた例であると言えよう。



山を守る

▲ 森林組合の方の指導の下、間伐作業に取り組む生徒（額田中）

岡崎市の六十パーセントは森林に覆われている。しかし、安い外国材の影響や従事者の高齢化などにより、林業として成り立たず、山主の手入れが十分に行き届かないのが現状である。

そんな中、山を守るために、様々な面からの取組がなされている。

森林組合では、山主に対して山の手入れを呼びかけたり、国や県に対して補助を訴えたり、山に関心のある企業や学校に対して現状を紹介し、林業を体験するための手伝いをしたりしている。

また、荒廃した山に森を育てるボランティア活動も盛んになっている。壱山町・夏山町に位置する、おおだ山では山留舞やまどまい会というグループが中心となり、間伐や下草刈り、植樹などを行っている。市も「森の駅」構想の一環として、それをバックアップしている。

小中学校においても、山を守ることの大切さを知り、積極的に活動している学校がある。総合的な学習の時間などで、子供たちが、間伐を行ったり、間伐材を用いてベンチや小屋を作ったり、里山再生に取り組んだりしている。



▲ 山道の整備（河合中）



▲ スギの枝打ち（秦梨小）



▲ 生ごみ処理器の製作



▲ 間伐材利用の木製品

森林組合



▲ 下草刈り

ボランティア



▲ 倒木の撤去



▲ 樹木への金網囲い作業

「森の駅」構想

平成 18 年、岡崎市と額田町が合併し、乙川水系の人と森がひとつになりました。この豊かな水源の森を守り、未来へつなげていくキーステーションが「水とみどりの森の駅」。ここを拠点に、人と自然がふれあい、森と街の市民交流から自然と共生する文化を引き継いでいきます。

「おかざき水とみどりの森の駅」
パンフレット（岡崎市発行）より抜粋

《森の駅一覧》

（平成 18 年 7 月現在）

- おかざき自然体験の森（ハツ木町）
- 茅葺の里（かやぶき 千方町）
- おおだの森（せまんじょ 榎山町・夏山町）
- くらがり溪谷（石原町）



▲ 新入生によるヒノキの植樹（常磐南小）



▲ 間伐した木の枝打ち（豊富小）

小中学校

お知らせ

●教育最新情報

○OKネットの活用

OKネットは、様々なサーバーに散在していた各教材を、一か所から簡単に利用できるようにするために整備してきた。昨年、追加した教材は、インタラクティブスクール（家庭用）と教育用デジタルコンテンツである。教育用デジタルコンテンツは、静止画、動画、教材などが二万件以上登録されている。例えば、授業でバーを扱う場面では、デジタルコンテンツから検索をすれば、すぐにバーの動画を見ることができている。

○職業しらべ・職場体験ナビ

今年新たに追加したのは、職業しらべ・職場体験ナビの二つである。両方とも、中学生向けではあるが、職場体験

学習を実施している中学校は多いと思うので、ぜひ利用していただきたい。

また、授業の一場面で、子供の理解を促進するシミュレーションソフト、調べ学習に役立つ図鑑・辞典ソフト、到達状況を確認するドリルソフトなども数多くあり、家庭から一部利用できるようになってきている。

○十一万件を超える教材

OKネットのセンターサーバーには、十一万件を超える教材が登録されている。センターサーバーに登録している理由は、次の二つである。

一つ目の理由は、これから学校へ多くのパソコンが導入されていくと、新しいパソコンには、教材ソフトが入っていない。教材ソフトを入れるためには、パソコンの数に比



例して、多額の費用がかかる。

教材ソフトをセンターサーバーに登録をしておけば、コスト削減につながるからである。

二つ目の理由は、パソコンにソフトを入れておくと、パソコンが古くなると、パソコンと同時に教材ソフトも廃棄されてしまう。センターサーバーに登録しておくことで、年々、ソフト資産として蓄積でき、長期間にわたって利用できるからである。

今後、教材ソフトを蓄積し、すべての教科・領域の単元・題材から利用できるようにソフトの数を増やしていきたいと考えている。



本年度導入された、職業しらべナビ

●少年自然の家だより

○すぶちネーチャークラブ

学校週五日制に対応した本所主催行事で、子供たちに大好評の「すぶちネーチャークラブ」は今年で五年目を迎える。本年度は、市内の小学校の男子二十一名、女子九名の総勢三十名が会員となった。

四季折々の所内の自然の中で様々な体験活動を通して、自然に親しむすばらしさを実感することを目的としている。本年度は会員相互の親睦（しんぼく）を図り、責任感や自主性の向上などもねらいとして、年七回の活動を予定している。

五月十三日（土）、第一回目を開催したが、あいにくの雨の中、午前中は体育館で自己紹介ゲームなどのレクリエーションを楽しんだ。午後は創作棟で木製の名札作りをした。最後に、雨の降る中、元気に所内を散策して日程を終えた。一日をとともに過ごし、仲良くなった仲間と次回の再会を約束して解散した。

○新緑に親しむ会

桜の季節が終わり、山々の緑が色濃くなった四月二十二日（土）、「新緑に親しむ会」が開催された。講師に「体験の森」の千賀敏之先生をお招きし、新緑に覆われた所内を歩き、樹木や植物に親しんだ。「オドリコソウ」や「コノハミツバツツジ」、「シユンラン」などの名前の由来や、それにまつわるお話を聞いて回った。途中の休憩時間には、講師さんが作ってきてくれた「ハルジオン」や「リョウブ」など、普段はめったに口にすることのない山菜の天ぷらを味わった。

最後に、創作棟で各自が採集した草花を使ってしおりを作り、この日の記念とした。



▲千賀先生を迎え新緑を満喫

●表彰

◆松下教育研究財団主催

第三十二回実践研究助成

藤川小学校

◆第九回中日本中学生アーチェリー大会 30・30M部門

男子 一位から六位まで独占

女子 二位・四位・五位

男女とも東海中学校

◆FBC県コンクール春花壇

優秀賞 細川小学校

◆第十八回県中学校弓道練成大会

第六位 額田中二年 小野恭平

◆第二十二回近県中学校団体

選抜ソフトテニス大会

男子の部 第三位 城北中学校

女子の部 第三位 城北中学校

◆第二十回全日本小学生ソフトボール選手権大会県予選

優勝 根石小(根石ユニアクラブ)

◆県「心をむすぶ学校づくり推進事業」実践指定校・園

広幡幼稚園・常磐南小学校

六ツ美中学校

◆第四回岡崎市「特色ある学校づくり推進事業」委託校・園

矢作幼稚園・連尺小学校

大樹寺小学校・東海中学校

額田中学校

◆第50回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美	六ツ美北	甲山
	女	竜南	六ツ美	美川
バスケットボール	男	矢作北	六ツ美北	甲山北
	女	六ツ美	南	竜海東海
バレーボール	男	矢作	東海	南 矢作北
	女	矢作北	新香山	北 福岡
ソフトテニス	男	河合	六ツ美北	甲山城北
	女	矢作北	竜海	常磐城北
卓球	男	南	美川	竜海 矢作北
	女	額田	六ツ美	竜海 竜南
体操	女	矢作北	竜海	南
	女	矢作北	東海	南
剣道	男	竜海	矢作	北 甲山
	女	南	額田	甲山 矢作北
ハンドボール	男	美川	六ツ美	竜南 葵
	女	美川	六ツ美北	竜南
軟式野球	男	六ツ美北	城北	北 額田
	女	城北	矢作北	葵 矢作
柔道	男	竜南	矢作北	竜海 矢作
	女	矢作北	六ツ美北	竜南
サッカー	男	竜南	甲山	北 竜海

●陸上競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年100m	鈴木希宙	北	12"9
	100m	二宮直紀	甲山	11"6
	200m	杉浦貴大	六ツ美北	24"6
	400m	杉浦賢	六ツ美	55"9
	800m	水野真治	東海	2'05"6
	1年1500m	鈴木慎介	附属	4'56"2
	2年1500m	浜口修平	葵	4'24"2
	3000m	正木翔	南	9'29"7
	110mH	山本大貴	矢作北	16"6
	400mR	太田・鳥居・青山・杉浦	六ツ美	新46"9
女子	低400mR	片倉・岩附・市川・鈴木	北	51"2
	走り幅跳び	二宮直紀	甲山	6m06
	走り高跳び	太田郁也	六ツ美	1m60
	砲丸投げ	盛政仁至	六ツ美北	11m08
	棒高跳び	長谷川晃大	東海	3m10
	1年100m	久嶋晃乃巳	竜南	14"3
	100m	本多莉緒	矢作北	13"3
	200m	加藤麻衣	竜南	28"0
	1年800m	近藤華菜	甲山	2'35"1
	800m	後藤華由	竜南	新2'20"5
女子	1500m	長田彩果	矢作北	4'51"0
	100mH	田村舞帆	矢作	16"4
	400mR	小野田・榎田・鈴木・石川	美川	53"8
	低400mR	斉藤・山本・柵木・柴田	美川	55"7
	走り幅跳び	森口真衣	東海	4m90
	走り高跳び	中嶋文望	岩津	1m48
	砲丸投げ	岩瀬梓	葵	11m04



▲第50回岡崎市中学校総合体育大会開会式(宣誓 葵中学校生徒)

●個人戦競技(1位のみ)

種目	性	階級・部門	氏名	校名
柔道	男子	軽量級	堀祥弘	矢作北
		軽中量級	堀江脩平	矢作北
		中量級	畔柳諒輔	竜南
	女子	重量級	前粟蔵要人	矢作北
		軽量級	加納菜々子	六ツ美北
		軽中量級	本田裕子	矢作北
アーチェリー	男子	30m部門	白井智也	東海
		18m部門	田代佑治	東海
	女子	30m部門	河合祐果	東海
		18m部門	長坂和佳	東海
弓道	男子		小野恭平	額田
体操競技	男子	個人総合	藤岡千尋	矢作北

・カ
ツ
ト
緑
丘
小
赤
崎
類
子

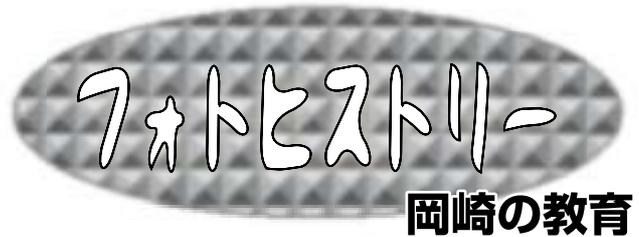
遊び主体の保育の始まり

(昭和44年)

写真提供：矢作幼稚園

写真は、園の隣の田んぼでザリガニやカエルを夢中で捕っている子供たちの姿である。昭和四十四年、矢作幼稚園では、それまでの一斉指導の形態を変え、自主性や創造性を育てる個別指導を取り入れた保育を始めた。「同じことばかりやっているように見えるが、子供の考え・行動は変化している。遊びの中で子供が工夫するようになって」とは当時の母親の弁である。

平成三年の教育要領の改訂により、この形態の保育が全国で行われるようになった。市内でいち早く取り組んだ矢作幼稚園は、先駆的な役割を果たした。



オジギソウが小さな花を咲かせている。軽く触れるだけで、お辞儀をしたように葉が垂れ下がる様子が楽しくて、よくついで遊んだものだ。

お辞儀は、日本の良き習慣。どんなときも、相手に対する敬意や感謝の念を忘れない人でありたい。

市制九十周年を祝う岡崎市。県下で三番目に市制を施行し、額田町との合併で三十七万八千人の人口と県内第三位の面積を持つ中核市として躍進する。九十周年の節目に接し、「人、水、緑が輝く、活気に満ちた 美しい都市 岡崎」の姿を未来へ伝えたいと願う。

シ オ ス ア

「アドバンテージ サーバー」と、審判のコール。あと一点取れば勝ちである。しかし、ここからの一点がなかなか取れない。こうしたら確実に取れるという方法もない。だから、今日も必死で練習する。

子供たちにとって最後の「暑い夏」がまたやってくる。

スギやヒノキの丸太の価格はこの二十五年間で三分の一になっているそうだ。高齢化、不採算。産業として成り立たない林業。山の荒廃……。

そんな中、様々な面から山を守る活動が行われている。日本の財産である山や森を守る取組の広がりや、さらに期待したい。



- * 音の雲 富田 勲 ￥1780
NHK出版
- * 人をひきつける話し方 秋山 和平 ￥1470
学事出版
- * 13歳からの人生論 山崎 武也 ￥1260
三笠書房
- * 日本の名随筆別巻52 学校 森 毅 編 ￥1890
作品社

* ヤンキー先生の 子供がわからない親たちへ 義家 弘介 ￥1470
祥伝社

著者は、母校でもある北海道の北星学園余市高等学校の教職を辞し、現在、横浜市の教育委員を務める。

本書は、悩める子供と親を見続けてきた著者が初めて語る「親論」である。しかし、ここで語られる親としての望ましい在り方は、そのまま教師に置き換えられる。わが子が袋小路や迷路に迷い込む前に、親（教師）として、「聞く、伝える、学ぶ」3つのプロフェッショナルになれと訴える著者。体験からの言葉には説得力がある。